

採択会議については、今後も非公開とし、採択後、速やかに採択結果や会議録等を公表する。

### 中学校給食はじまる

伊川 京子 議員



施政方針において、中学校給食の本格実施に向け、モデル校を1校選定し、平成28年度中に先行実施すると示されたが、同時に他の5校についても明確な計画が示されなければ不公平になる。また、建設費についての補助金の関係から、農村レストランを併設する案もあるようだが、ハコモノ行政のやり方であり、考えるべきではないと思うがどうか。

**A** 中学校給食については、最短での全校開始を考えており、文科科学省への補助金の申請、各学校の配膳室の整備、給食センターの建設等の全てを同時進行で進め、モデル校で先行実施することによる他校の不公平感に対しても説明を行う。また、最短での全校開始を最優先する考えから、鋭意検討した結果、農村レストランの併設は行わず、給食センターのみを建設するところ結論に至った。

### 奨学金制度の充実で若者の将来に夢を

神近 寛 議員



国や県の奨学金制度においては、無利子貸与や給付型の拡充、地元への就職を条件に返還を減免するなどの支援策が進められている。本市の制度も入学準備金の新設や、中学校在学中に給付を決定し、高校入学と同時に給付するなど、若者の将来が家庭環境に左右されない、真に役立つ心ある制度として、充実させることを強く要請する。

**A** 奨学金制度については、平成28年度から給付型における所得基準を見直し、また、貸与型についても、より多くの学生に貸与できるよう基金の増額を検討したい。また、奨学金の返還に係る支援については、今後、日本学生支援機構や長崎県育英会の動向、県内各市町の取り組みを調査、研究したい。また、入学時の支給開始については、審査上、困難であるが、これまでより早い7月に交付することはできないか事務作業を進めており、さらに今後、対応を検討する。

### 高等教育機関を誘致すべき

水上 享 議員



本市は研究学園都市を目指しているが、文科科学省は大学の新設や新学部の設置を認可しない厳しい状況にある。しかし、職業教育については、現在の大学や専門学校では不十分だとして、工業科や商業科等の卒業者の進路や社会人の学び直しの機会を拡大するため、実践的な職業教育を行う高等教育機関の制度化へ向け審議されている。高等教育機関の誘致に向け努力すべきである。

**A** 国において、職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化へ向けての研究が進められていることについては、市長就任後すぐに情報を得ている。高等教育機関の誘致については、大学設置戦略会議においても、総合的に検討したい。



がんばくん

### 総合教育会議のあり方について

城 幸太郎 議員



平成28年度施政方針において、1番目に「教育・文化」が挙げられている。教育委員会制度の改革により、首長との連携が強化され、責任体制の明確化が図られた。平成27年度は3回開催されたが、市長として、初めて出席し、どのような感想を持たれたか。また、教育現場においては、学力や体力の低下、不登校、いじめ、教員の疲弊、子どもの貧困等の問題が山積みである中、年3回の開催で十分と考えているのか。

**A** 総合教育会議については、緊張感を持って臨んだが、活発な議論にまで発展しなかったというのが率直な感想である。また、年3回の開催は大変少ないと思っており、今後は、内容をしっかりと掘り下げるため、1会議につき1つのテーマとするなど、開催回数を増やして中身を充実させていきたいと考えている。

